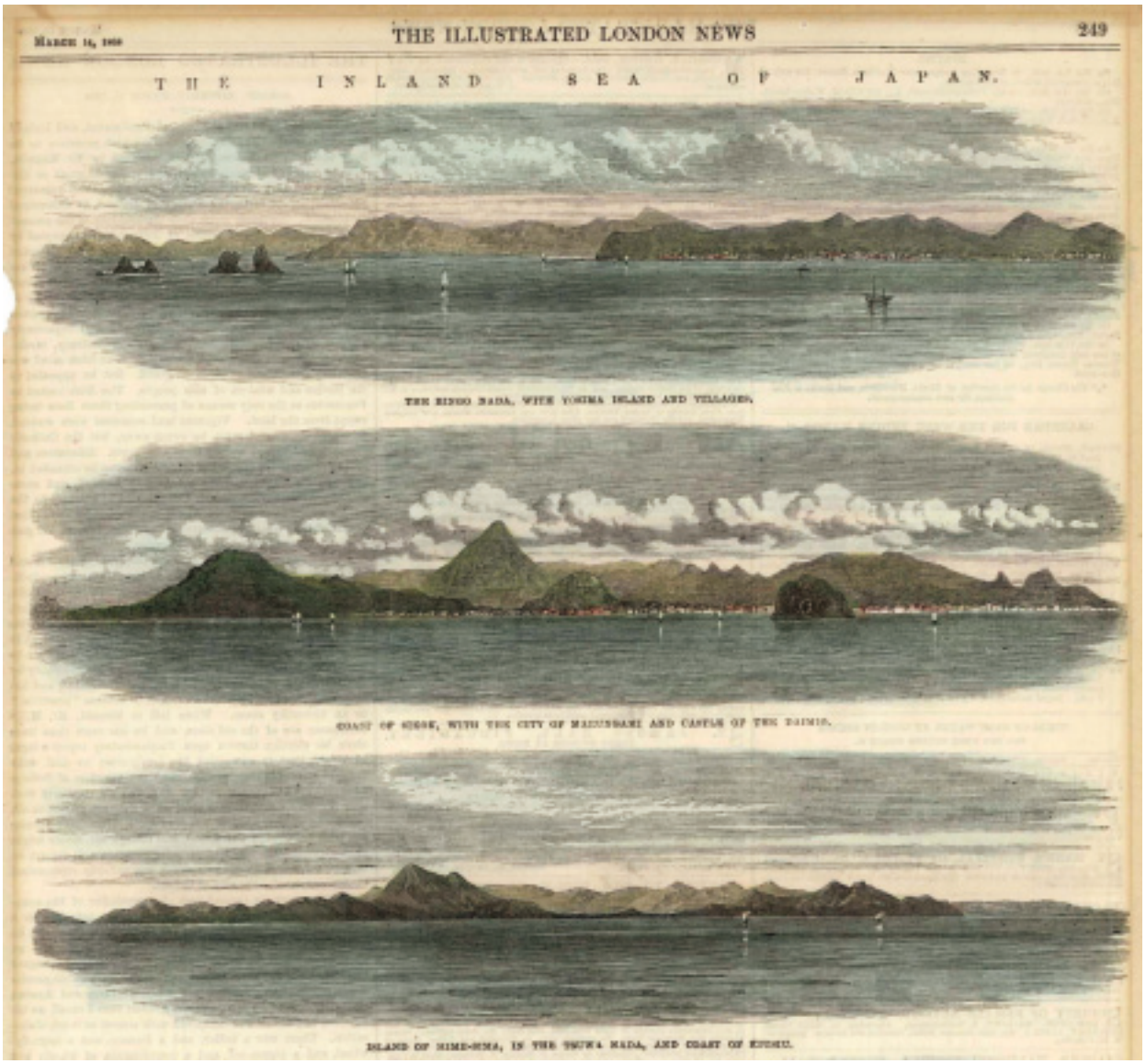
香川大学瀬戸内圏研究プロジェクト

瀬戸内圏の地域文化の発見と観光資源の創造

研究の目的

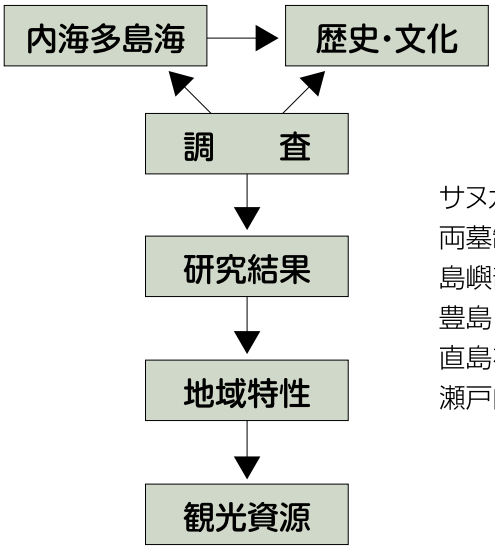
現在の瀬戸内海域に、歴史や文化・地域・社会システムという学問による視点を与えることにより、今あるものを違った観点から評価し、広い意味で人を引きつける観光資源になるよう、研究をつなげていきたいと考えています。



これはロンドンで毎週発行された絵入り新聞の一部です。左の肩の発行年月日に注意して下さい。1868年3月14日です。明治元年の最初の日が、1868年9月8日ですから、これは江戸時代の最後の年です。描かれている風景は上が備後灘、中は丸亀の風景です。丸亀には大名の城があると書かれています。瀬戸内海の風景がロンドンで出版されているというのは不思議でしょう。ヨーロッパの人には瀬戸内海の風景がおだやかでこの世のパラダイスにも匹敵する風景と見る人もいたからです。当時の日本人にはごく当たり前の生活する風景でした。同じ風景を見るこの見方は後の日本人にも影響を与え、最初の国立公園として瀬戸内海国立公園が成立するのに、大きな影響を与えたと考えます。

視点を変えることで従来と見え方が変わってしまう。これは観光においても大きな役割を果たしています。

調査・研究課題



サヌカイトの古代の流通・サヌカイトを観光資源にする試み
両墓制文化の変化にみる島の人の死の文化、島の生活の奥深さ
島嶼部の八十八ヶ所霊場と島四国巡礼、島のスピリチュアルツーリズム
豊島・直島の居住環境と、観光事業に対する住民の気持ち、
直島を訪れる観光客の意識とそれを受け入れる住民意識
瀬戸内海沿岸の観光への農村景観利用と観光者の観光行動

この2枚の写真は三豊市志々島の写真です。左が1983年3月11日右が2007年4月14日に撮影したものです。だいたい同じ場所から撮っています。島の風景が変わったことに気づきます。

耕作放棄された畑が目立ちます。元の林に帰りつつある斜面が存在しています。過疎化と人口減、少子高齢化は他地域に先行して見られます。こういう瀬戸内地域の環境の中で観光は新しい光に見えます。島の調査を通じて、島の文化を素材とする、新しい観光を考えてみたいと思います。

〈研究組織〉

研究代表者:	稲田　道彦	（経済学部）	島嶼地域の両墓制文化の変容
研究分担者:	丹羽　佑一	（経済学部）	古代経済の中心サヌカイトの流通・研究
	大賀　睦夫	（経済学部）	島のスピリチュアル・ツーリズム研究
	室井　研二	（教育学部）	豊島・直島の居住環境・観光事業に関する現地調査
	古川　尚幸	（経済学部）	直島を訪れる観光客に対する意識調査研究
	金　徳謙	（経済学部）	瀬戸内海沿岸における農村景観利用および観光者の行動調査